

景況実感調査(2017年4月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 薄板の需給タイト感は継続していたが、新年度に入り少し需要が少なくなりタイト感が薄れつつある。オリンピック特需がいつ、どのくらい出るのがカギになりそうだ。
- ② 稼働日数20日となったが、物件対応納期と重なり売上増となった。ただし、全体的な景況感はむしろ悪化しており、無い物高にもかかわらず足下の仕事量は少なく、連休明けの実需動向に注目している。薄板ミルの定修もあり、供給サイドの状況は変化なく移行していけようが、流通各社の採算は概ね減収増益が発表されており、今期こそ増収による増益決算として行きたい。

中板

- ① 母材入荷は低調で高炉の強気姿勢は変わらず、流通としてもユーザー価格への転嫁に努めているが、3月後半以降、足下の末端需要は振るわず、流通量、市況ともに一服感が漂っている。とくに黒皮については値上がりピッチが鈍っており、横這い弱気基調となっており、ユーザー価格転嫁への影響が懸念される場所である。海外相場の行方や中国市況動向に今後注視しながらではあるが、流通として悩ましいところである。

厚板

- ① 新年度に入るもメーカー値上げに対して価格転嫁が出来ないのは、取り巻く環境の悪さからである。値上げ出来ていない。

开形鋼

- ① 前月比10%以上の売上減なれど、前年同月比ではやや増加の営業結果は、4~6月期の不需求期突破作戦としては幸先が良いと思うべきだ。来月も少しでも前年同月比増加の営業結果であれば、来るべき需要期への備えをすべきだろう。
- ② スクラップ価格の変動に左右されている。

H形鋼

- ① 4月の倉出しはプラスだが前月が悪く状況は変わらない。5~6月は期待できないので、需要期になるまで現状価格を維持する。
- ② 市況は変わっていないが、上昇までなかなか行かない。上げ疲れが出てきた感がある。

異形棒鋼

- ① スクラップ市況の大幅下落(半月間で▲7.0)は丸棒製品市況に今後大きな影響を与える。ゼネコンの購入姿勢は厳しくなるが、需要の増加が見込まれる時期に向かってメーカー、流通は適正市況の維持に努力すべきである。
- ② 店売りの動きは、2月3月は良く、4月5月は悪かった。6月7月どちらかは少し動くと考え。単かは3月末に切り上がってからは横這いで推移している。

平鋼

- ① 荷動きは相変わらず小口中心。需要の端境期なのか荷動きが悪化している。頼みの建築需要も夏以降か。価格転嫁も半ばで停滞している。

軽量形鋼

- ① 先行き不透明。
- ② 店売りが相変わらず低調だが、昨年よりは確実に良くなっているので期待はしている。
- ③ 前月と同様に、一部製品のみ受注が多く、バランスが悪い。原材料不足が深刻。
- ④ 閑散期に入り荷動きは全体的に低調。使用材料単価は、ここに来て大幅上昇しているが、販価はそれ程上昇しておらず、苦しい状況が続く。

鋼管

- ① 例年の4月に比べやや繁忙感がある。市況は強含みで推移している。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連部品はメーカーによって多少のバラツキはあるが、全体的には堅調な動きとなっている。建設機械及び工作機械関連は底堅い動きが続いている。ただし、建設機械は夏以降、不透明な見通しとなっている。店売りの動きは、メーカーの高操業とは温度差があり、依然として盛り上がりや欠く状況が続いている。各鉄鋼メーカーの一次値上げに伴い、値上げを進めている。また、一部の電炉メーカーの追加値上げについては、スクラップ価格の値下がりが続いており、難しい状況である。
- ② 店売りでは、ほぼ全社に対しての値上げが行われたため、前月の駆け込みが影響している。状況は厳しい。

鋼材全般

- ① 3月と比較すると、4月上旬の動きが悪い。メーカーは4月以降も強気だが、市場に活力が無く、二次流通としては価格転嫁を実行しづらい。5月も下旬までは同様の荷動きと思われ、今後は明らかに収益が低下すると思われる。安値対応はできない。

その他

<スクラップ>

- ① 昨年から高値で推移してきたスクラップ相場が4月一ヶ月の間に暴落した。中国のスクラップが国外へ流出したことが大きな要因といわれているが、このまま中国がスクラップを輸出し続けるとしたら、今後、今よりもっと早いスピードで市況が荒れるのではないかと懸念されている。何か歯止めを掛けるプラス要因が現れることを期待するしかない。

<金属表面処理加工>

- ① 4月は紐付き、物件物は計画通りであったが、スポットの扱い量が予想に反して、荷動きが悪く30%ダウンとなった。しかし、付加価値の高い作業も多く、売上げ的には微減であった。5月は物件物が急ピッチで動くため、扱量は増加の予想。引合い件数が増加していることから、今後期待する。